

・ 講習会等

平成 28 年度

ワークショップ・シンポジウム

防げる死から子どもを守るために

～ 虐待死の検証からすべての子どもの死の検証へ～

平成 29 年度

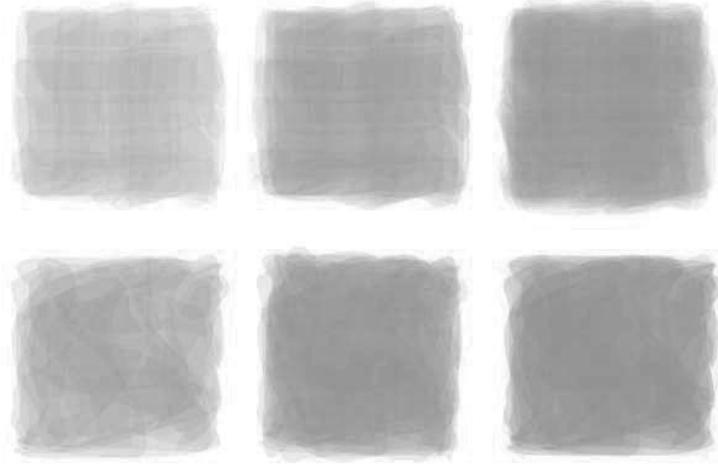
子ども虐待重大事例検証

実践講習会

ワークショップ・シンポジウム

防げる死から子どもを守るために

虐待死の検証からすべての子どもの死の検証へ



厚生労働科学研究費補助金研究事業

「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究」

研究代表者 奥山員紀子（国立成育医療研究センターこころの診療部）

研究の概要

厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業

「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究」

研究代表者 奥山員紀子（国立成育医療研究センター こころの診療部）

子どもの死や被害を無駄にせず、虐待死などの痛ましい事例を防止するために、国の重大事例検証が行われ、重要な施策や制度につながった。その後、地方公共団体による死亡及び重大事例検証が法律に義務づけられたが、結果が十分に活用される検証となっているとは言い難く、また、検証対象が一致しないために、国の検証も対象が不均一になっている。

本研究では、これらの問題点の背景を明確にし、以後の活用につながるマニュアル（検証委員会のあり方、検証対象、必要な情報と収集方法、対象の種類による必須検証内容など）を作成するなど、より効果的な検証となるような提言を行うことを目的としている。

昨年度から本年度にかけては、全地方公共団体及び検証委員に向け質問紙調査と聞き取り調査を実施、また、海外のマニュアルなどを参考にした必要情報のチェックリストの作成、さらに検証をより効果的にするために、医療機関に向けて虐待が疑われる死の調査、SIDSとの鑑別、法医学情報の必要性や加害者面接の有効性の検討等を行った。以降は、これらの調査を踏まえ、現場で活用できる検証の手引きの作成と、医療機関へ向けた虐待死の見逃しを防止する方法の提示、法医学情報や加害者面接実施に向け法的条件を含めた提言を行い、地方公共団体が行う子ども虐待事例の検証をさらに有用なものへと進化させることを目指している。

9:30 11:00

ワークショップ 子どもの虐待死ゼロを目指して

座長 奥山員紀子
国立成育医療研究センター 副院長/こころの診療部 部長

①子どもを虐待から守る母子保健活動
中板育美 日本看護協会 常任理事

②子どもを虐待から守るソーシャルワーク
西津哲 山梨県立大学人間福祉学部 教授



11:10 12:40

シンポジウム I 虐待死検証効果と限界 CDR(Child Death Review)に向けて

座長 奥山員紀子 国立成育医療研究センター 副院長
こころの診療部 部長

講口史剛 前橋赤十字病院小児科 副部長

①地方公共団体の虐待死亡事例検証の現状
相津仁 大分大学福祉健康科学部 教授

②虐待死亡事例検証の効果と限界
奥山員紀子
国立成育医療研究センター 副院長/こころの診療部 部長

③死亡事例検証に法医学はどこまでかかわれるか
内ヶ崎西作 日本大学医学部法医学分野 准教授

④海外でのCDRと日本での虐待死亡事例検証の見逃し
講口史剛 前橋赤十字病院小児科 副部長
(追加発言:柳川敏彦 和歌山県立医科大学保健看護学部 教授)

指定発言
宮本信也 筑波大学 副学長・理事、附属学校教育局教育長

H28年度 ワークショップ・シンポジウム
防げる死から子どもを守るために
～虐待死の検証からすべての子どもの死の検証へ～

参加者アンケート

申込数 102
来場者数 97

アンケート回収 66
(回収率68.0%)

1. 回答者属性

1 医療機関	13
2 教育機関	5
3 行政機関	28
4 福祉機関	13
5 司法機関	2
6 NPO,NGO, 団体、個人	4
計	66

2. 感想

1 非常に満足	17
2 満足	34
3 どちらとも	7
4 不満足	3
5 非常に不満足	0
無回答	5
計	66

3. 所持資格

1 医師	16
2 看護師	2
3 助産師	2
4 保健師	18
6 社会福祉士	8
6 精神保健福祉士	2
7 社会福祉主事	4
8 保育士	2
9 臨床心理士	2
10 児童心理司	1
11 教員	1
12 弁護士	1
13 児童福祉司	1
14 特にない	5
15 空欄	1
計	66

2. 感想 自由記述(抜粋)

<非常に満足・満足>

- ・CDRの必要性を強く感じていたが、知識が皆無だったので非常に勉強になった。
- ・タイムリーな内容を今後の課題方向性を考えるために、学びが深まりました。
- ・とても専門的なお話を聞くことができた。これからの方向性を知ることができた。
- ・専門家の方々がどれだけ先のことを真剣に考えて対応を検討されているかを知ることができ、頼もしく感じるとともに、自分としても学びに満ちた一日だった。
- ・シンポジウムの討論の時間があるとよかったが、それぞれの立場での検証に関する知見が聞けて良かった。

<どちらともいえない>

- ・より具体的な話やアドバイスが今後発信できるかどうかにかかっていると思う。
- ・一つ一つの内容について、もう少し掘り下げた話を聞きたかった。
- ・1人1人の先生方の持ち時間が少なかったと感じた。もう少しゆっくり聞きたかった。

<不満足>

- ・発表者の資料がほとんどなかった
- ・時間に比べて内容が多すぎた。パワーポイントの文字も小さく、資料として配付してほしい。

厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業

「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究」
研究代表者 奥山員紀子（国立成育医療研究センターこころの診療部）

子ども虐待 重大事例検証

実践講習会

日時：2017年12月17日（日） 10:00～

場所：フクラシア東京ステーション 6F会議室D

講師 五十音順

相津 仁 大分大学福祉健康科学部 教授
内ヶ崎西作 日本大学医学部法医学分野 准教授
奥山員紀子 国立成育医療研究センター
こころの診療部 部長
中板 育美 日本看護協会 常任理事
西津 哲 山梨県立大学人間福祉学部 教授
溝口 史剛 前橋赤十字病院小児科 副部長
宮本 信也 筑波大学 副学長

ご注意ください

- 会場及びプログラムの録音、写真撮影・動画撮影は固くお断り申し上げます。
- 昼食は会場内でお召し上がりいただけますが、ゴミは必ずお持ち帰りください。
- 配布いたしましたガイドラインは、原案となっております。本講習会でのディスカッションを経て、本年度末に正式版を作成し、都道府県、指定都市、中核市、特別区等、重大事例検証所管課へお送りする予定です。

プログラム

10:00～11:50 午前の部
挨拶 / 重大事例検証の目的と方向性
検証委員会の運営のあり方
検証対象と事例の把握
情報の収集
保健分野
福祉分野
警察等の捜査情報
加害者面接

11:50～12:50 昼休憩

12:50～16:00 午後の部
事例の性質による検証のポイント
重大事例検証の実践
重大事例検証の限界
質疑応答・ディスカッション

奥山員紀子
相津 仁
溝口 史剛
奥山員紀子
中板 育美
相津 仁
内ヶ崎西作
西津 哲

西津 哲
宮本 信也
溝口 史剛
全講師

お問合せ窓口

国立成育医療研究センター こころの診療部

Email: kokoro-pj@ncchd.go.jp TEL:03-3416-0181（内線 5311）

H29 年度

子ども虐待重大事例検証 実践講習会 参加者アンケート

開催日時：平成 29 年 12 月 17 日（日） 10:00～16:00

会場：フクラシア東京ステーション 6 階会議室 D

申込数 115 名、来場者数 99 名

回答数 88（回収率 88.9%）

1 ご所属機関の種別についてご教示ください

行政機関 国 都道府県 市町村
福祉機関 児童相談所 その他
医療機関 専門領域・種別（ ）
教育機関 専門領域・種別（ ）
その他（ ）

3 講習会の内容は、今後の検証委員会の運営に役立ちますか？

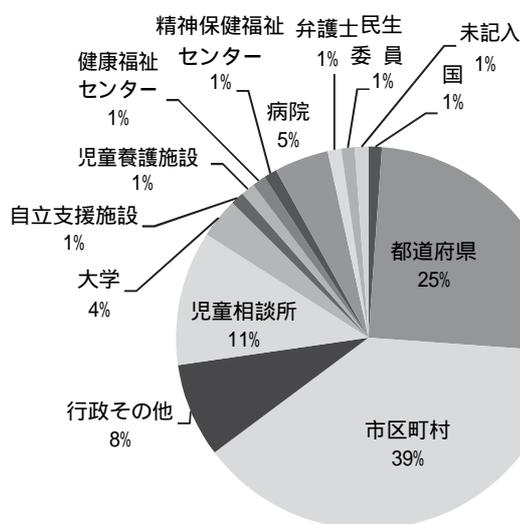
大いに役立つ 役立つ あまり役立たない
全く役立たない わからない

2 重大事例検証への関わりについてお答えください

- 1) 事務局として委員会を開催したことがある
- 2) 検証委員として関わったことがある
- 3) 今後、事務局として運営する予定がある
- 4) 今後、検証委員として関わる予定がある
- 5) 未定

4 手引きの内容は、今後の検証委員会の運営に役立ちますか？

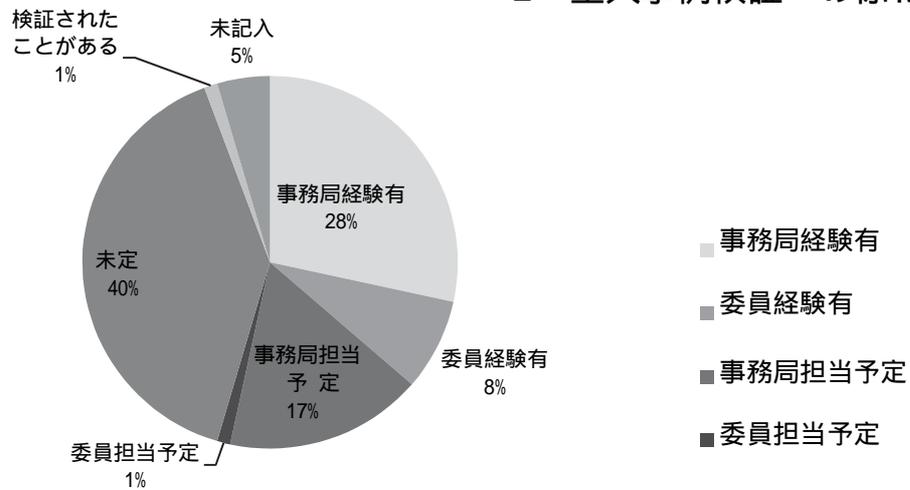
大いに役立つ 役立つ あまり役立たない
全く役立たない わからない



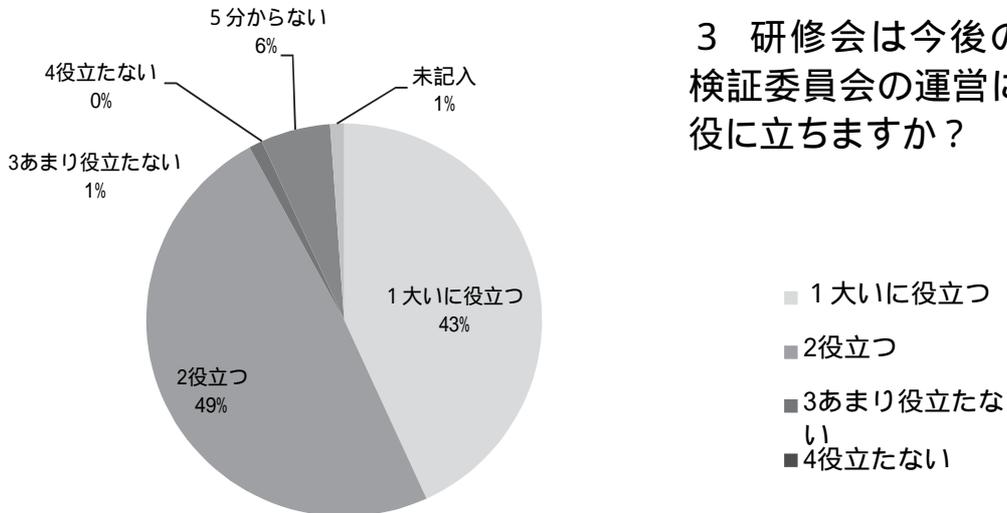
1 所属機関

- 国
- 都道府県
- 市区町村
- 行政その他
- 児童相談所
- 大学
- 自立支援施設
- 児童養護施設
- 健康福祉センター

2 重大事例検証への係わり



3 研修会は今後の検証委員会の運営に役に立ちますか？



4 手引きは今後の検証委員会の運営に役立ちますか？

